

展示品目録

資料名	点数	遺跡名	所蔵・保管
竹内街道・中高野街道 分岐道標 (岡4丁目) ※パネル展示	1		
竹内街道・中高野街道 茶屋筋道標 (岡5丁目) ※パネル展示	1		
河内国丹北郡松原村向龜絵図	1		吉村家住宅
古市以下七部役所内部絵図	1		//
大座屋池水利絵図	1		松原市教育委員会
大師堂 十三佛屏風	1		同町会・同観音講
神田寛栄寺 肖像写真	1		//
「河内名所会」巻之四	1		西田敏弘氏
「廣場山」銘 軒丸瓦	2		当館
紫羅神社 拝殿前 石燈籠 拓本	1		//
昭和初期に撮影された紫羅神社参道と松並木	1		松原市
手洗鉢と河内大塚山古墳 ※パネル展示	1		
伊壁片	5	岡遺跡	大阪府教育委員会
土器 (瓦器椀、土師皿、瓦質片口鉢、瓦質羽釜、三足付羽釜)	16	//	//
溶解炉下段	1	丹南遺跡	松原市教育委員会
伊壁片	1	//	//
土器 (羽釜、瓦器椀、瓦器皿)	4	//	//
銅型	8	//	//
銅型焼成用支脚	1	//	//
半球状土製品	1	//	//
長方形土製品	1	//	//
銅型片	5	立部遺跡	//
伊壁片	2	//	//
羽口	1	//	//
土器 (瓦器椀、土師器皿、瓦質片口鉢)	8	//	//

【おもな引用・参考文献】

- ・大阪市立大学(編)2019「シンポジウム 河内跡物師の実像に迫る」(資料集)
- ・大阪府教育委員会1993「岡2丁目所在遺跡発掘調査概要報告書」
- ・大阪府文化財調査研究センター1998「発掘速報展 大阪 98」(大阪府立近つ飛鳥博物館平成9年度冬季企画展図録)
- ・榎木規秀2023「河内跡物師の里-大阪府松原市の跡道関連遺跡-松原市教育委員会の調査を中心に-」
「跡道遺跡研究資料2023」跡道遺跡研究会
- ・堺市立みはら歴史博物館2014「河内跡物師の誇り-餅・釜づくりの名人たち-」(平成26年度特別展図録)
- ・松原市民ふるさとびあプラザ郷土資料館2013「街道展-松原の往來案内-」(平成25年度特別展パンフレット)
- ・松原市民ふるさとびあプラザ郷土資料館2017「竹内街道と松原-街道を行き交う人々-」
(平成29年度特別展パンフレット)

【協力者(敬称略、五十音順)】

本展の開催およびリーフレット作成にあたり、次のの方々・諸機関には多大なるご協力・ご援助を賜りました。記して感謝の意を表します。
池本 保 小田木富慈美 小浜 成 佐伯博光 竹原伸次 西田敏弘
西田久子 藤田雅之 守田 悠 安松昌志 吉村 香
大阪府教育委員会 公益財団法人大阪府文化財センター
同町会 同観音講 紫羅神社 泉福寺



松原市の歴史遺産を伝える 松原市郷土資料館

松原市民ふるさとびあプラザ
一般財団法人 松原市文化情報振興事業団
大阪府松原市上田7-11-19 TEL: 072-336-6800



ホームページはこちら



会期 **10.12** ±
2024/
11.24 日

9:00~17:00 **【入館無料】**

会場: **松原市郷土資料館 1階**

特別展示室

(松原市民ふるさとびあプラザ)

※月曜休館(10月14日と11月4日は開館します)

主催: **松原市**

一般財団法人 松原市文化情報振興事業団

共催: **松原市教育委員会**

ごあいさつ

平成29年(2017)に竹内街道・横大路が日本遺産に認定されて7年が経過しました。竹内街道の一部は松原市南部を東西約1.5kmにわたって通過しており、街道沿いにはその歴史について記した解説板やモニュメントが建てられています。ただ、生活道路として日々の暮らしの風景に溶け込んでいくため、あまり意識されていないかもしれません。

今回の企画展では、松原市域の日本遺産である竹内街道、紫羅神社、河内跡物師関連遺跡を紹介いたします。竹内街道が造られて以降1400年の間、多くの人や文物の往来にもなっており、生み出された産業や信仰に思いを馳せ、地域の歴史や文化財にあらためて目を向けていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展を開催するにあたり、貴重な資料をご提供いただきました各所蔵者・各機関ならびにご協力いただきました関係各位に対して厚く御礼申し上げます。

令和6年10月12日

松原市(一財)松原市文化情報振興事業団

松原市令和6年度企画展 竹内街道の風景と河内跡物師の里



松原市郷土資料館

松原市 令和6年度企画展 松原の日本遺産 ~竹内街道の風景と河内鑄物師の里~

◆最古の国道 竹内街道

【日本書紀】推古21年(613)冬11月癸に「難波より京に至る大道を造」という記述があり、難波の港と京をなわち飛鳥とを結ぶ道路が設置された。この「大道」の一部が現在の竹内街道であると考えられています。この竹内街道は、飛鳥時代は中国や朝鮮半島の使節や文物が往来する外交の道としておもに使われましたが、奈良時代以降は、聖徳太子ゆかりの地を訪れる太子信仰の人々や、近世には高野山や伊勢神宮へ参詣する人々も行き交う道として利用されました。また中世には貿易港として栄えた堺と大和国を結ぶ経済の道として機能するなど、時代ごとに重要な役割を果たしてきたと言えるでしょう。

竹内街道という名称については、江戸時代の絵図などによると「大和海道」「大和路」との記載が多く、これが当時の一般的な呼称だったと思われる。一方、明治時代の史料や絵図には「竹ノノ」内街道と記されていることから、竹内街道の呼称がひろく使われるようになったのは明治時代以降のようである。



河内国丹北郡松原村岡岡島絵図 天保14年(1843)
(吉村家宅蔵)

江戸時代後期の松原村岡の様子を描いたもので、南を上としています。道筋は朱色に彩色され、村を東西に横断する「大和海道」が竹内街道です。また、村の東寄りを通る江戸屋敷つつ断崖に新断している「高野海淵」が中野野街道にあたります。



特別展示 岡観音講の「十三佛屏風」

(岡町会・岡観音講蔵)

明治時代後半、岡の観音講によって建立された大佛堂には、毎年4月21日の大祭にあわせて堂内で披露される十三佛屏風が保管されています。屏風は正徳10年(1720)に岡岡島、大塚の岡田宗成が伊勢より、観音講員により奉納された。講の人びとによって親代まで受け継がれてきた信仰を示す貴重な資料です。



竹内街道・中野野街道
茶屋筋道標
岡5丁目
松原南コミュニティセンター前



竹内街道・中野野街道
分岐道標
岡4丁目

◎ 岡の道標

竹内街道は市城南側の岡・立部を東西に約1.5km通っており、市域を南北にはる中野野街道とも交差しています。その場所は寛政9年(1797)5月に伊勢講によって建立された二つの道標があります。これらの道標は、竹内街道沿いに残る年号の形跡らの中で3番目に古いものです。また、この竹内街道・中野野街道の交差点付近には屋敷道と呼ばれ、かつては伊勢参りなどのための宿屋や料理屋が立ち並び、多くの人びとの往来がありました。



保管袋



保管袋

◆紫羅神社

竹内街道と長尾街道の間に位置する紫羅神社は、仁賢天皇の勅命により創建されたと伝えられ、反正天皇・昔原遺蹟・依賀宮禊を祀っています。享和元年(1801)に刊行された「河内名所図会」には「紫羅宮旧跡」の神絵が描かれており、当時の紫羅神社の様子を窺いることができます。江戸時代には広嶋山天神宮と称し、境内には広嶋山観音寺ともいわれる神宮も存在していました。ただ、観音寺は明治初期の神仏分離によって廃寺となりました。紫羅神社南門や、絵馬堂の屋根に書かれた「廣嶋山」の瓦の存在が、観音寺の名残をとめています。

紫羅神社は反正天皇が即位したとされる丹比紫羅宮の伝承地と建つ神社としてもよく知られています。宮の存在を示すような遺構・遺物などが見つかっていませんが、神社付近には「反正山」(廣嶋山)など、反正天皇との関わりを示すような地名がいくつか存在することからも、丹比紫羅宮の有力候補地であると言えるでしょう。



紫羅神社 絵馬堂



「河内名所図会」(部分) 享和元年に刊行された「河内名所図会」に「紫羅宮旧跡」の神絵が描かれています。「天宮宮」と書かれた場所が本殿で、「観音」と書かれた場所には、明治時代初期に廃寺となった神宮寺である観音寺が建てていたことがわかります。

◆河内鑄物師の里

松原市は律令制下では河内国丹比郡に属し、11世紀後半には丹北郡・丹南郡・八上郡(現在の堺市・松原市の一部)に分割されます。三郡には、平安時代末から鎌倉・室町時代にかけて活躍した「河内鑄物師」と呼ばれる優れた鑄造技術を持った集団が暮らし続けていました。

この鑄物師は、銅や釜などの生活用品を作って都で売り歩いたとされる「土鑄物師」と、街道の通行益を受けて全国を巡歴し、寺社の梵鐘などの大型物を注文のもとに出向いて作った「廻船鑄物師」に分かれます。

松原市域では住宅の建て替えや店舗建設などに伴う発掘調査によって、これまで3遺跡で鑄造遺構や鑄造関連遺物が確認されています。これらの遺跡は羽曳野丘陵からのびる台地上に立地し、周辺は鑄型の原材料となる良質な粘土が採取できる場所でもあります。街道にも近く、鑄造に必要な原材料や銅材、製品の運搬等にも便利な場所であることは、鑄物師たちが工房を構えるうえで好都合だったのでしょう。

丹南遺跡

遺跡の北部には竹内街道が東西にはしり、遺跡内を南北に中野野街道が通っています。これまで数度の発掘調査がなわれており、平成11年(1999)の店舗建設に伴う調査では、13~14世紀代の土坑や土井から、発掘状態が最も清瀬戸下段(平塚・羽口)などの鑄造関連遺物がまともに見つかりました。また平成18年(2006)の宅地造成に伴う調査では、大量の鑄造関連遺物が発見された土坑が見つかりました。伊勢・清瀬・弘島の鑄金、鑄物師伝承地など多岐にわたります。多量に土坑が発見されていることもあり、鑄物師も生産していたことが窺われます。鑄造遺構は確認されていませんが、多くの鑄造関連遺物が見つかったことから、周辺に工房の存在を想定できます。



丹南遺跡
鑄造関連遺物出土のようす
(松原市教育委員会提供)

(出土品すべて松原市教育委員会 立部遺跡出土品写真集(公益財団法人大阪府文化センター)提供)

岡遺跡

平成4年(1992)岡2丁目の居住区建て替えに伴う発掘調査で、平安時代末・鎌倉時代中期、室町時代前期の3時期にわたる遺構・遺物が確認されました。なかでも、鎌倉時代を中心に室町時代後半におよぶ鑄造遺構が顕著で、清瀬戸・鑄型を鍛えた土坑、鉄線が埋まった土坑などが見つかりました。鉄線は3.6トにもおよび、その量が多から鑄物師を中心に製作していたと考えられます。

岡遺跡 鑄造遺構
(大阪府教育委員会提供)

立部遺跡

平安時代~室町時代を中心に営まれた遺跡で、平成5年(1993)の竹内街道に隣接する市営住宅建て替えに伴う発掘調査では、平安時代後期~鎌倉時代前期の掘立柱建物・井戸・土坑群などが見つかりました。土坑は、鑄型等の原材料となる粘土を採取した痕跡とも考えられます。この土坑には、伊勢・鑄型・鉄線が埋められていました。土坑群の規模と産業された鉄線などから、工房が存在する可能性が高いと言えます。



立部遺跡出土
ふいこの羽口



立部遺跡出土
鑄片と伊勢片